

ふるさとわかちづくり

天道自治区

自治区の概要

天道自治区は、雲龍寺や八柱神社・飯田街道（名古屋～長野県飯田市）の道標にみられるように、古い歴史のある地域です。

昭和42年（1962年）に、猿投町は豊田市と合併しました。その当時、天道自治区の世帯数は222戸でした。ところが、昭和40年代の後半から、東部の柿畑や山林地帯に次々と住宅が造られ、世帯数が急激に増えていきました。昭和47年～56年の10年間に400戸ほど増えたことが分かります。

それ以来、旧来から住んでいた人と、新しく住むようになった人達が一致協力して「住みよい町づくり」に励んでまいりました。平成9年度には、区民が待ち望んだ天道区民会館が竣工し、地域づくりの拠点としての役割を果たしております。

「天道」の由来

寛永4年（1627年）宮下河原（現在の内浜工業の東）に衣村より雲龍寺が移転し、寺を中心にして農業を営んでいましたが、明暦2年（1656年）猿投川（籠川）の流路変更工事により東の四郷山（御山）に集団移住しました。

現在の天道をお山と呼ぶ高齢者も少なくありません。

江戸時代の四郷村の様子を伝える絵図（1751年）が残っていますが、絵図の色分けした田畑、荒地、山林、河川、道路のほか民家や社寺、村の諸施設などが克明に描かれ、畳2畳分を超える大きさであります。

それによれば、絵図のほぼ中央部で名古屋信州道（飯田街道）と挙母美濃道（美濃街道）が交わっています。街道交差点には幕府や藩のお触書き（おふれ）を張り出す高札がありました。高札は目立つ場所に立てられるのが普通で、こ



のあたり（山畑の信号機付近）が村の中心だったと思われます。

集落は飯田街道と美濃街道に沿いびっしり建ち並らば、民家は62戸です（四郷村家数147戸、人数847人、男418人、女429人、馬12疋、紺屋9、医師0）。



旧飯田街道の道標

耕地の大半は籠川右岸と街道に挟まれた籠川右岸と街道に挟まれた間にあり、田畑の中央部を縫う柳川の中流右岸側に災害対策用の米などを貯蔵する郷倉が建っていました。村の東部一帯は山林になっていました。



環境整備活動



花の街グループ

天道のまちづくり活動

「安心、安全、愛着+活力のある、ふれあい豊かなまちづくり」を区民と共に積極的に取り組んでいます。

交通防犯では、平成18年に小中学生の登下校時の安全、防犯に重点を置いた“交通防犯パトロール”を発足させ、従来の交通安全市民運動期間での立哨や夜間防犯パトロールと合わせて実施し、安心・安全の向上に努めています。

また、環境面では、ちびっこ広場の清掃を重点に防災・防犯の確保に努め新たな取り組みとして、18年度から花の街グループにより、夏はポチュラカ、ペチュニア、秋はパンジーの苗を区民へ配布し、心豊かな街づくりの1つとして実施しています。さらに、19年度は“ふれあい文化祭”を実施し、多数の区民の参加で盛り上がりました。ふれあい豊かなまちづくり活動を継続的に実行していきたいと思っております。

今後の課題

「安全なまちづくり」

自治区の課題は、区内の道路整備（通学路の確保）交通危険箇所の早期改善の実現に向けて、関係機関へ強気に働きかけ“安全なまちづくり”を区民と共に協力し積極的に作り上げていきたいと願っています。

天道自治区データ

(H19.4 現在)

設立	：明治10年
世帯数	：817世帯 486世帯（昭和51年）
組数	：43組
面積	：0.58Km ²
自治区たより	：「天道だより」年4回発行
回覧	：月2回（定期）・随時
ちびっ子広場	：7箇所
防犯灯設置箇所	：99箇所
小学校	：四郷小学校区
自治区会館	：天道区民会館（46-6070）